



編物雛形から展開した子ども用コート (東京家政大学博物館所蔵) の実物製作

キーワード

編物雛形, 子ども用コート, 実物製作, 手編み

研究内容

本学博物館には、重要有形民俗文化財（平成 12 年 12 月）に認定されている「渡辺学園裁縫雛形コレクション」があり、学内外に認知され研究も進んでいます。一方、編物で製作された雛形も保管されていますが、認知度はあまり高くはありません。また他大学の博物館での所蔵数も少ないことがわかりつつあります。これらにより編物雛形のコートの編地を熟覧・分析し、得られた結果から、製作された当時の手編みの技術や製作方法を検証し、子どもサイズの実物製作を行い、現在にも通じる製作を行うことが本研究の目的です。オリジナル資料をもとにデザイン、編地、編み方、縁の処理等に工夫を加えることで、実物サイズに展開できることを確認しました。



着装の様子

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・大塚有里, 能澤慧子「レプリカ制作を通してみる 19 世紀ヨーロッパのこども服 - 毛糸編みのドレス -」服飾文化学会誌作品編 Costume and Textile, 第 10 号, p.15-22, 2018
- ・大塚有里「編物雛形から展開した子ども用コート（東京家政大学博物館所蔵）の実物製作」服飾文化学会 服飾学研究 Costume and Textile, 第 8 号, 2026



オリジナル資料（編物雛形）との比較（平置き）

社会連携・産学連携の可能性

編物雛形, 子ども用コート, 実物製作, 手編みに関する内容について、協力・連携が可能です。